

平成 21 年 4 月 23 日現在

研究種目：基盤研究（A）

研究期間：2006～2009

課題番号：18202014

研究課題名（和文）北東アジアにおける「記憶」と歴史認識に関する総合的研究

研究課題名（英文）Study on the memory and historical understanding in NE Asia.

研究代表者

氏名（ローマ字）：三宅 明正（MIYAKE AKIMASA）

所属機関・部局・職：千葉大学・大学院人文社会科学研究所・教授

研究者番号：30174139

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・史学一般

キーワード：グローバル化・比較歴史学・ナショナリズム

1. 研究計画の概要

北東アジアでは、異なった「歴史」の記憶と、その集合的記憶への固執が、今なお融和を妨げている。これを解決するためには、第1に、過去の「事実」自体を可能な限り合理的な手続きに基づいて復元する必要があることは勿論であるが、第2に、集合的記憶が時間軸の中で生成・継承され、ある社会集団の正統なる「歴史」として認知されていくプロセス自体について、実証的、ならびに理論的解明が求められている。本研究は、北東アジア各地域における集合的記憶＝「歴史」がいかに生成・継承されてきたのかを、人文諸学の協力による学際的共同研究に基づき総合的に考察する。

2. 研究の進捗状況

本研究では、その特色である学際性をいかしつつ緊密な共同研究を実施すべく、分担研究者・連携研究者全員を「ナショナリズムと歴史の記憶」（A班）、「生活基層世界と口承の歴史」（B班）、「集合的記憶の生成に関する比較史的、理論的考察」（C班）、「表象（イメージ）と文字（出版）による記憶の継承」（D班）の4つの研究班に分けて組織し、A班を統括総括班として、各班単位での活動を開始した。これまで3年間にわたって、ほぼ毎月の研究会と、海外ならびに国内各地での資史料調査・フィールドワークを実施してきた。研究会では分担研究者・連携研究者にとどまらず、外部から講師を招いてのそれも頻りに実施してきている。外部からの講師は、国内にとどまらず韓国やドイツから招聘するなどして、当該テーマを日本国内の議論のみではなくより広い脈絡で検討するように心がけてきている。また海外ならびに国内各地での資史料調査・フィールドワークは、場所的には北海道から沖縄、そして山間部から都市部、さらには漁村に及び、海外ではアメリカや台湾、中国等、広範囲にわた

っている。さらに調査収集した史資料は、文字資料が多いものの、それにとどまらずイメージ資料やオーラルな資料へと広がっている。それらのうちきわめて貴重なものは、すでに印刷してほかの研究者への利用の便宜をはかってきている。最終年度には、総括的な国際シンポジウムを実施して本研究の到達点を明らかにするとともに、次の課題の明確化をはかりたい。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

研究計画全体は、基本的に当初の予定に従って順調に進行してきた。ただし一部で、対象との関係で、資史料調査がやや遅れている分野があるので、早急にその克服を急ぐことにしたい。

4. 今後の研究の推進方策

2に記したように、最終年度は総括的な国際シンポジウムを開催する予定である。それに関連して班別の作業と全体の研究会が継続して開催される。なおやや遅れた分野のある資史料調査については、別途に体制をつかってこれを促進することとしたい。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 27 件）

①中川裕／アイヌ英雄叙事詩成立過程の時間層／口承文芸研究／32／29-42／2009／査読有

②三宅明正／諸外国の日本同時代史研究／同時代史研究／1／14-21／2008／査読有

[学会発表] (計 6 件)

① 三宅明正 / Rewriting History in a Textbook in Contemporary Japan. / Conference „Shifting Re-Creations of European and Asian ‚Others‘ in East Asian schoolbooks“ / 2009 年 3 月 19 日 / Heidelberg, Germany

[図書] (計 10 件)

① 菅原憲二 / 近世京都御倉町文書史料集 2 / 2009 / 千葉大学文学部 / 114 ページ
② 三浦佑之 / 古事記のひみつ / 吉川弘文館 / 2007 / 220 ページ

[その他]

<http://www.history.l.chiba-u.jp/~northeastasia/>